

謹賀
新年



いわき市

農業委員会だより

編集・発行 いわき市農業委員会

2019

平成31年1月1日発行

No.180

〒970-8026
いわき市平字堂根町4-8
TEL.0246(22)7534
FAX.0246(22)7538

推進委員の調査に密着!



地図をたよりに調査する農地へ直行します。ボードに調査日・農地の地番等を記入します。



農地にボードを設置して…



農地の状況を撮影します。報告書も作らなくては。



片づけをして次の現場へ…

いわきの農地を守るため、今年もがんばります!

主な記事のご紹介

2ページ

- 年頭のあいさつ
- 農地パトロール

3ページ

- がんばる農業者あの人この人 永久保 ツメ子さん (三和町中三坂)

4ページ

- 今号の表紙から

- 新たな推進委員が就任しました

5ページ

- 農地流動化情報
- 県下農業委員会大会

6ページ

- 地区だより(北部地区)
- トピックス



2019初春

年頭のあいさつ



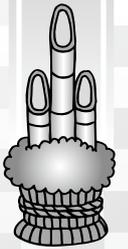
いわき市農業委員会
会長 草野 庄一

新年、明けましておめでと
うございます。

皆様には二〇一九年の新春
をお健やかに迎えのことと
お慶び申し上げます。

昨年7月、農業委員会法改
正後、農業委員24名、農地利
用最適化推進委員32名、計56
名の新体制での業務開始以来、
早半年を経過致しました。

新たな「農地利用最適化推
進委員」の業務におかれまし
ては、行動規範である「農業
委員会が定めた区域内の農地
等の利用の最適化の推進のた
めの活動を行う」を基本に各
担当区域の農地利用状況調査
を開始し、全筆調査マップを
基に遊休農地及び荒廃農地等



の確認作業を実施している
ところです。

今後は、さらに精度向上を
目指し遊休農地の発生防止に
努めると共に、担い手や農地所
有者の意向調査を随時進めて
参る所存ですので、地域の皆
様のご協力をお願い致します。

農地法の許可等を主たる業
務とする「農業委員」は、法
に則り、実施した現地調査報
告と併せ、厳正的確な判断で
慎重審議のうえ、その可否を
決定しております。

また、従来からの業務であ
る、農業者年金加入推進及び
全国農業新聞の購読におきま
しては、皆様方のご理解とご
協力をお願い申し上げます。

私の干支である「亥年」、
近年厄介ものの存在だがお許
しを願って、「猪突猛進」信
念(新年)を貫き頑張ります
ので、本年も宜しくお願い申
し上げます。

農業委員・推進委員合同
農地パトロールを実施しました

昨年8月～11月の農地パトロ
ール強化月間中の10月22日、農
業委員・推進委員合同のパトロ
ールを実施しました。

当日は、菅波一郎農業委員、
佐川良平農業委員、小川智推進
委員、菅野嘉晴推進委員と事務
局5名の計9名でパトロールを
行い、午前中に北部地区及び中
部地区、午後に南部地区の農地
を周りました。

また、移動中に啓発CDを流
しながら、街頭広報を実施しま
した。



街頭広報車



調査に臨む農業委員・推進委員

当日は、主に以下の5点につ
いて調査を行いました。

- ① 利用状況調査
- ② 転用行為の進捗状況及び履行
状況調査
- ③ 新規就農により取得した農地
の利用状況調査
- ④ 違反転用調査
- ⑤ 営農型発電設備を設置した農
地の営農状況

調査の結果、対象農地に問題
は発見されませんでした。農地
パトロールは通年で実施されま
すので、皆様のご理解、ご協力
をよろしくお願いいたします。

がんばる農業者 あの人この人



ながくぼ
三和町中三坂 永久保 ツメ子さん (67歳)

今回ご紹介するのは、三和町中三坂にお住まいの永久保ツメ子さん(67歳)です。野菜の栽培、漬物・加工品の製造等多様な取り組みに活躍されています。
永久保さんが現在の様に幅広く製造・出荷をするようになったきっかけは、平成8年、毎週日曜日に開かれる直売所「三和の里うまい菜市」に野菜を出荷したことでした。自家用にと栽培した余剰野菜でしたが、おいしい野菜だとお客様に喜ばれ、なおかつ、かなりの現金収入になったそうです。

ハウス4棟5アール、野菜畑20アール、漬物・加工品を製造する施設等を有するようになりました。また、おいしい野菜を作るため、繁殖和牛5頭を飼養し、良質な堆肥を野菜畑に投入し、甘く日持ちのよい野菜作りを心掛けています。
その他にも、耕作をやめた地域内のたばこ畑30アールを借り受け、夏の冷涼な気候を利用し、夏ネギ栽培グループ中三坂ネギ部会(会員3名)を設立し、その中心となっています。収穫した夏ネギは、

その後、うまい菜市の出荷者が中心になり、平成20年11月に常設直売所「三和町ふれあい市場」をオープンしました。
現在は、三和町ふれあい市場に出荷する野菜を中心に規模拡大し、

J A福島さくら、三和町ふれあい市場に出荷し、良質なネギと高い評価を得ているそうです。
地域内の全たばこ農家が廃業し、耕作放棄地が増える中、少しでも耕作放棄地解消に貢献できればと話していました。
また、自家用野菜を利用した漬物、自家産もち米を利用した漬物、おふかしはおいしいとお客様に喜ばれているそうです。
三和町ふれあい市場の理事としても経営・販売増に一生懸命取り組んでおり、何事にも頑張るこの人です。
これからは、定年退職した夫と二人三脚、専業農家として更においしい野菜作りに頑張ると笑顔で話してくれました。忙しい中、快く取材に応じてくれ、また、元気な笑顔にこちらが元気をもらいました。感謝。
(執筆 草野久仁昭 委員)



全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 月4回金曜日発行 月700円、年8,400円(税込)

■購読の申込みは市町村農業委員会へお気軽に連絡ください。
■発行所 全国農業会議所
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8
☎03-6910-1130 ✉gyoumu@nca.or.jp
http://www.nca.or.jp/shinbun

農家の思いを伝え 農業・農村の「未来」を ともに考えます。

全国農業新聞は
地域農業者の代表機関である
農業委員会のネットワークが
発行する週刊の農業総合専門紙です。

農業者の視点でお届けします

- ①特徴のある週刊新聞
…解説に力点を置いたニュース報道と企画編集
- ②時代に鋭く斬り込む
…農政・農業・農村の動き、問題をタイムリーに
- ③経営に役立つ
…知っておきたい経営・流通情報と経営マインド
- ④喜びや悩みを共感できる
…読者の心に訴え、ともに考える
- ⑤読みやすく親しみやすい
…老若男女が楽しく読める

今号の表紙から

「推進委員」。正式には「農地利用最適化推進委員」といいます。少し長い名称なので、推進委員といっています。

平成28年に改正法が施行され、農業委員会においては、「農地等の利用の最適化の推進」が重要な必須業務になりました。この業務を遂行するために農業委員会に推進委員を置くことが義務づけられ、現在、いわき市農業委員会では32名の推進委員によって業務が行われています。

業務は一言で言えば、農地の有効活用を図ったり、新規就農者を支援したりすることです。農地の現況調査はその第一歩です。表紙から業務の一端が伺えれば、と思います。

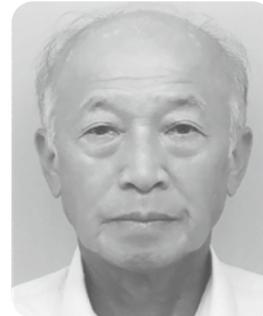
フィールドワークゆえのご苦労がいろいろあるそうで、提出される報告書は汗の結晶でありましょう。

推進委員は農業委員とともに農業委員会の両輪にたとえられます。今後いつその活躍が期待されるところです。

(執筆 蛭田元起 編集委員長)

新たな農地利用最適化推進委員が就任しました

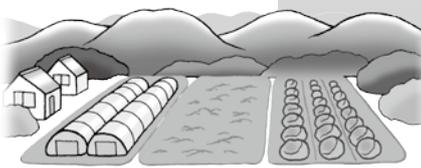
一名欠員となっていた四倉・久之浜・大久地区の農地利用最適化推進委員が新たに選任されました。任期は平成30年10月1日から平成33年7月7日までとなります。どうぞよろしくお願いたします。



委員 一敬 高 飯

農地の納税猶予を受けている方へ

引き続き農業経営を行うことを条件に、贈与税や相続税の納税猶予の適用を受けている農地は、農業経営の廃止や農地以外への転用、耕作の放棄などにより、一部例外を除いて納税猶予が打ち切れられ、面積に応じた額の全部または一部に利子税を付して納付が必要となります。



農地の納税猶予制度は、農地の相続等による農業経営の細分化を防止するとともに農業後継者を支援し、農業経営の継続を図るために設けられた税制上の特例措置ですので、制度を利用されている方は、引き続き農地の適正な活用をお願いいたします。

農業者年金

(経営移讓年金・特例付加年金) 受給中の注意事項!!

名義等の変更手続きについて

次の諸名義は、後継者など経営移讓の受け手の名義に変更する必要があります。

変更後、再度名義を取った場合、経営移讓年金等が支給停止となる可能性があります。

経営移讓年金等が支給停止になる可能性がある事例

農業者年金のうち、経営移讓年金や特例付加年金の受給は、後継者に農業経営を移讓することが条件となります。後継者の農業経営に従事することとは可能ですが、農業経営の主体となる場合、年金が支給停止となる場合があります。なお、老齢年金については、経営や農地の状況による支給停止はありません。

- ア 農業共済の加入名義
- イ 米の生産調整にかかる助成金(経営安定所得対策)の申請名義
- ウ 農業所得の納税申告名義
- エ 土地改良区の組合員名義
- オ JAの組合員名義など



- ① 後継者に貸し付けた農地を返還された場合
- ② 後継者に貸し付けた農地を、別の者に貸し付け、売り渡し、または転用した場合
- ③ 年金受給権者が農地を買い入れるなど、農業経営を再開したと認められる場合

農地流動化情報

Vol.39

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談下さい。

■貸したい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平下高久字牛転 (1筆)	畑	1.12
2	平下高久字北谷地 (4筆)	田	43.78

ご覧になって、手続き等の詳細を知りたいという方は農業委員会事務局までお問い合わせください。



※今回掲載した農地以外にも
売買・貸借等の意向がある方は、
是非ご相談ください。

■売りたい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	渡辺町田部字六反田 (2筆)	田	37.97
2	渡辺町田部字岸 (1筆)	田	13.43
3	平下神谷字山ノ内 (1筆)	畑	5.06
4	平中平窪字扇田 (1筆)	田	25.00
5	平下山口中ノ町 (4筆)	田	38.49
6	好間町愛谷字東内 (1筆)	畑	3.34
7	好間町愛谷字追切 (1筆)	畑	3.97
8	常磐白鳥町小田倉 (1筆)	田	0.29
9	常磐白鳥町小田倉 (1筆)	畑	4.10
10	小名浜南富岡字真石 (9筆)	田	98.05

お問い合わせ 農業委員会事務局 農地調整係
☎0246(22)7578



県下農業委員会大会に参加しました

昨年11月13日(火)、福島市飯坂町にある「バルセいいざか」において、一般社団法人福島県農業会議主催による「平成30年度福島県下農業委員会大会」が開催されました。県内市町村の農業委員・農地利用最適化推進委員をはじめ、関係者約千四百名が参集し、当農業委員会からも、農業委員16名、農地利用最適化推進委員20名、計36名が参加しました。

当日は、講演と、事例発表を中心とした大会内容となりました。記念講演として、「農業・農村の活性化に向けた農業委員会への期待」と題し、国立大学法人福島大学行政政策学類教授である岩崎由美子氏の講演がありました。また、報告事項として、県選出国会議員への要請書について説明がなされました。要請書には「東日本大震災並びに原子力災害からの復旧・復興について」や、「諸外国との経済連携について」、「来年度の農業政策

表彰では、当農業委員会からは「永年勤続農業委員及び農地利用最適化推進委員」として、在職期間13年の長瀬紘推進委員(77歳)が表彰されました。



トピックス

昨年11月18日(日)に、毎年恒例となりました田人町の秋祭り「田人ほっこり祭」が開催されました。

地元田人町の農家さんによる軽トラバザールや近隣の飲食店さんによる飲食ブース、乗馬体験、丸太切り大会、田人町の飲食店を二店舗まわりスタンプを集めると特産品が当たるグルメラリーなど、盛沢山の催しが開かれました。今回はクラウドファンディングを利用させて頂き、新しいスタイルのお祭りとなりました！

来年度は地域をあげてさらに楽しいお祭りにしていきますので、皆様のお越しをお待ちしております。



(撮影・執筆 蛭田 秀史 副委員長)

自動車道のいわき市内の区間で唯一4車線化がなされていないのがいわき中央〜四倉間です。いわき中央インターチェンジ以北へ向かう場合、大型トラック等が行き交う中、見通しが悪かったり、追越し車線も短いためイライラした経験をお持ちではないでしょうか？完成までおむね5年だと言われていますが、東京オリンピックに間に合うように急ピッチで工事しているように見受けられます。

現在JR常磐線の不通区間がある中、交通手段として常磐自動車道の役割が重要視されていると思います。現在、いわき中央〜仙台間約140km、時間にして2時間半近くかかります。全線4車線化になれば1時間半位で仙台の街中まで行けるようになるでしょう。時間の短縮により人の往来、物流が一段と活気づいてくると思います。今まで遠かった仙台空港、仙台港の利用も私たちの選択肢の一つになるのではないのでしょうか。仙台空港では国内11路線、海外4路線があり、私達の行動範囲も広がると共に4車線化された常磐自動車道を利用する事によって国内、海外からの観光客がいわきまで足を伸ばしてくれる事を期待します。いわきの観光地、特産品がより身近になってくれると嬉しいですね。常磐自動車道は浜通り地区の夢と希望の道であり、早期の4車線化を期待します。

(執筆 和田 正人 委員)



常磐自動車道いわき中央以北の早期の四車線化に期待



編集後記

二〇一八年は自然災害の多い年でした。

1月・2月は大雪。5月の長野北部地震。6月の大阪府北部地震。7月豪雨。9月の北海道胆振東部地震。加えて、7月以降は毎月のように猛烈な台風が全国各地を襲い、多くの被害をもたらしました。

北海道の地震では、その後の長時間停電などもあり、東日本大震災を経験した私たちにとっては他人ごとではなく、現地の人たちの苦労を想い、心を痛めました。台風についても、大型で強い台風が多く、今までに観測されたことのない進路を通るなどして、大雨・強風により各地で大きな被害をもたらしました。

返す返すも、自然の脅威に翻弄された一年でした。二〇一九年は、穏やかな年となることを願います。

また、今年も、平成最後の年であり、新元号の始まりの年でもあります。有終の美を飾り、素晴らしいスタートを切れる年になればと思います。

(執筆 箱崎 寿正 委員)

編集委員

蛭田 元起 委員長・蛭田 秀史 副委員長
遠藤 重和・鈴木 義直・草野 久仁 昭
箱崎 寿正・和田 正人